

## 1 基本的な考え方

本校の訪問教育は、奄美群島内の八つの有人島で行われる可能性があり、平成30年度は、奄美大島・徳之島・沖永良部島の3島で行われている。教育活動は、児童生徒の実態に応じて本校各学部の教育課程を基に、個別の指導計画を作成し行う。現在在籍している児童生徒は、日常生活は全面的な介助を必要としており、生活の場が制限されることが多い。そこで、健康や生命を維持するための自立活動を中心としながら、健康状態に無理のない範囲で人や物、自然とのかかわりを通して児童生徒が喜びや楽しみを感じ、日常生活がより豊かになるように教育活動を行う。

## 2 訪問教育の内容及び指導時間等

保護者の協力や管理の下で、一人一人の児童生徒の実態に応じて適切な学習ができるように、個別の指導計画を作成し継続的な指導の充実を図るとともに、指導目標に沿った活動を選択・組織して年間指導計画を作成し、指導している。具体的には児童生徒の興味・関心を基に、いろいろな体験を通して周りの変化への適応力を身に付けたり、コミュニケーションの基礎的能力を高めたりする。授業は1単位時間を45分とし、1回2単位時間、週3回の6単位時間を標準とする。

## 3 指導に当たって

### (1) 健康・安全面についての配慮

医療機関や保護者と連携し、児童生徒の体力や必要な医療の状況を十分把握し、授業の中で適切な対応ができるようにする。また、保護者からの情報や観察から健康状態を十分把握してから授業に入るようにする。学習の時間配分や内容などは、児童生徒の体調に合わせ、使用する教材・教具は、消毒や点検等して安全・衛生面に十分気を付けるようにする。

### (2) 情緒・情操面についての配慮

障害や病気の状態、発達の段階だけでなく年齢に合わせた接し方、教材の選択、母子分離の機会などを大切にする。また、様々な経験を重ね、好きなことや好きなものを見付け、楽しむことができるようにする。

### (3) 感覚・運動についての配慮

障害の程度に合わせて、担任から積極的に働き掛け、児童生徒の身体の動きを促す題材や、受動的な感覚遊びを通して環境の把握能力を高める題材を工夫する。姿勢や運動・動作の基本的技能についても、医療機関と連携をとりながら働き掛けていくようにする。

### (4) コミュニケーションについての配慮

発達の状況に合わせて、児童生徒の反応を読み取るために児童生徒の表情や身振り、発声などを注意深く観察する。また、児童生徒が主体的に学習に取り組むような関わり方も工夫する。

### (5) 社会性についての配慮（交流及び共同学習）

訪問教育生は、生まれたときから家族を中心とした比較的限られた人間関係の中で生活してきていることが多く、同世代や異年齢の子供と関わる機会が少ないことが考えられる。そこで、一人一人の実態を見極め、体調等に配慮しながら登校・外出する機会(スクーリング、居住地校交流〈小・中学部〉)を設定し、家族や教師との関わりから友達との関わりへと人間関係を広げていくようにする。

### (6) 保護者への対応

在宅における訪問教育の場合、担任が家庭生活の場に入出入りすることになるので、家族の理解と協力を得ることが重要になる。また、家庭の様子を理解し、保護者など主たる介護者が抱える介護や養育についての不安やストレスなどを和らげ精神的な支えとなることも大切である。状況に合わせて管理職や学部主事等一緒に訪問することで、保護者への訪問教育への理解を深めていく。

#### 4 スクーリング

訪問教育生は、同年齢や同程度の発達の段階にある児童生徒の集団の一員として活動する機会が少ない。このような実態から、学校行事や学部行事、合同学習など集団での学習の場を設定し、人や物との関わりをより豊かにするなど生活経験の拡大を図ることを目的としてスクーリングを設定している。実施に当たっては、保護者に十分説明を行い、参加できる場合は、保護者が引率して登校し、担任による指導を行うことにしている。

#### 年間スクーリング計画(案)

一学期	4月	1学期始業式, 入学式
	5月	
	6月	
	7月	1学期終業式
二学期	9月	2学期始業式
	10月	運動会
	11月	
	12月	2学期終業式
三学期	1月	3学期始業式
	2月	学習発表会, お別れ遠足
	3月	卒業式, 修了式

#### 5 年間指導計画

##### (1) 在宅訪問教育の年間指導計画(例)

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
題材名	なかよくなるろう (ふれあい歌遊び)		なつをたのしもう (水遊び・シャボン玉遊び)		あきをたのしもう (匂い遊び・落ち葉遊び)		ふゆをたのしもう (光遊び・温泉遊び)		もうすぐはるだ (音・匂い遊び)		
自立活動	<b>マッサージ, 全身のリラクゼーション, 姿勢保持, 関節の拘縮や骨の変形の防止, 外気浴</b> ふれあいたいそう(ふあふあ, ゆらゆら, にこちゃんたいそう, REMAC II等) ふれあい体操(ふれ愛リラックス, ふれ足, ふれっ手, 変装しよう~顔あそび) 呼吸の安定, 排たん法, 上肢・下肢の曲げ伸ばしや姿勢変換, 移動 等										
	<b>感覚運動遊び</b> 光遊び, 音遊び, 調理遊び, 感触遊び, 揺れる遊び, 風遊び, 玩具遊び 等										
	<b>関わり遊び</b> 絵本の読み聞かせ, パネルシアター, 手遊び, 指遊び 等										
	<b>作る遊び</b> カレンダー, 鯉のぼりや七夕飾り等の季節の行事に合わせた制作活動, 訪問教育共同制作 ※ 自立活動の六つの区分の中からそれぞれ必要な項目を選定し, それらを一人一人の児童生徒の実態に応じて組み合わせ, 具体的な指導内容を設定する。										

(2) 在宅訪問教育の授業（例）

時間	学習の流れ	内 容
10分	始まりの会（朝の会）	○ 健康観察（排せつ・睡眠・体温・発作等） ○ 学習の始まりを意識する活動
30分	身体に関する学習	○ 学習の内容の確認 ○ 健康の保持や身体の動きに関する課題に応じた学習（体操・マッサージ等）
30分	課題学習	○ コミュニケーションや環境の把握などの課題学習 ・ 感覚刺激（見る・触る・聞く等）の体験 ・ 創作活動や表現活動 ・ 教科や各教科等を合わせた指導 ・ 季節に応じた活動 等
10分	リラックスタイム	○ 心身の緊張ほぐし 体調確認
10分	終わりの会	○ 学習の振り返り ○ 学習の終わりを意識する活動 ○ 次時の予告

6 高等部支援教室について

高校校舎を活用した大島養護学校高等部支援教室は、平成22年度から与論高校，平成25年度から徳之島高校及び沖永良部高校，平成30年度から喜界高校で実施しており，与論高校及び沖永良部高校においては現在閉級している。

学習内容は，本校高等部のⅢⅣ課程を基に，個別の教育支援計画及び個別の指導計画との関連を図りながら実施する。交流及び共同学習については，各高等学校と連携を図りながら実施する。